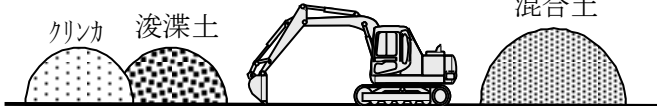
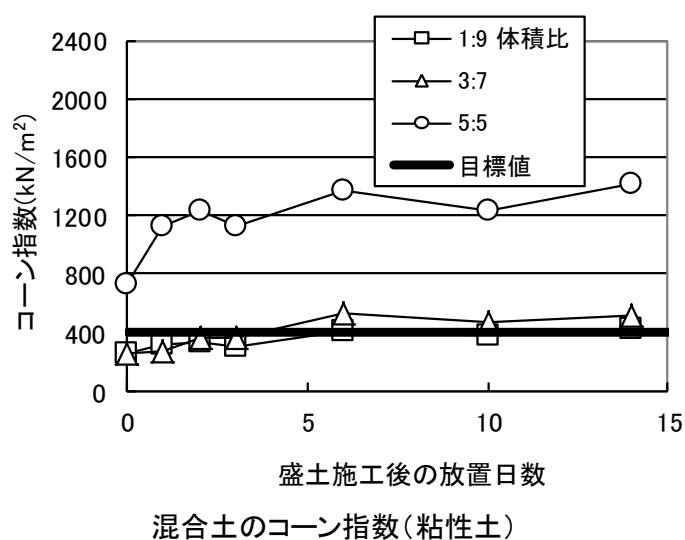


整理 No.	80	分類	未利用資源	
会 社 名	東北電力株式会社 研究開発センター			
担 当 者	電源・環境グループ 成田 健，橋本 澄明			
連 絡 先	TEL	022-278-0356（代表）	FAX	022-278-2176
	E-mail	narita.takeshi.yp@tohoku-epco.co.jp, hashimoto.sumiaki.ue@tohoku-epco.co.jp		
技術の名称	石炭灰（クリンカアッシュ）の道路盛土材への利用技術			
概 要 (150 字程度)	クリンカアッシュは、石炭火力発電所のボイラ底部の水槽に落下した石炭灰を破砕機で粉砕したもので、これを高含水土と概ね 5 対 5 の割合で混合することで高い土質改良効果を発揮することを確認しました。混合方法もバックホウによる混合で十分施工が可能で、混合土は転圧後の放置で強度が大幅増加することを確認しました。			
技術登録等	なし			
技術の概要	1. 技術のポイント 石炭灰（クリンカアッシュ）¹⁾と不良土²⁾を混合し、不良土の含水比低下による土質改良を行い混合土を道路盛土材料として利用しようとするものです。 ¹⁾石炭灰(クリンカアッシュ)：多孔質で排水性および吸水性に優れた材料です。 ²⁾不良土：建設工事で発生する土のうち、含水率が高く強度不足のため、そのままでは廃棄処分するしかない土のことです。			
	2. 混ぜ方 石炭灰（クリンカアッシュ）と不良土の混合方法は、最も簡便なバックホウ混合で十分です。 クリンカ 浚渫土  混合方法			
次頁 あり	3. 改良効果 不良土の土質改良効果は、時間の経過と共にコーン指数³⁾が増加し、良質土（第 3 種建設発生土）相当に改良できます。 ³⁾コーン指数：地盤の固さ、締まり具合を表す指標です。同指数が大きいと硬く、小さいと柔らかいことを表します。			

技術の概要
(つづき)



盛土試験状況



4. 使用時の留意点

石炭灰（クリンカアッシュ）の利用に際しては、運搬・貯蔵時および利用時における留意点を十分に把握し、適切に施工しなければなりません。

5. 利用ガイド

国土交通省東北地方整備局は、石炭灰（クリンカアッシュ）を建設工事用の資材として有効活用するための手法を示した「道路盛土における石炭灰と建設発生土利用ガイドライン（案）」を策定しています。

なお、資料については当社までご請求下さい。